



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター
 （奈良県保健環境研究センター内）
Nara IDSC



● 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 全数報告対象感染症届出状況（11月） NEW
- 奈良県結核患者情報（11月） NEW



（調査週） 平成 23 年 第 51 週 12 月 19 日（月）～12 月 25 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週間からの動向）

順位	疾患	定点当たり	奈良県	北 部	中 部	南 部
1	感染性胃腸炎	7.03	↑	→～↑	↑	↑
2	インフルエンザ	2.42	↑↑	↑↑	↑↑	→
3	水痘	1.46	→	→～↑	→	↓
4	RS ウイルス感染症	0.77	→	→～↓	↑	↑↑
5	A 群溶連菌咽頭炎	0.60	↓	↓	↓	→～↑

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は 244 例で、前週報告の 242 例からほぼ横ばい。上位 5 疾患は、①感染性胃腸炎、②インフルエンザ、③水痘、④RS ウイルス感染症、⑤手足口病の順。インフルエンザの報告数（73 例）は、前週に引き続きほぼ倍増。感染性胃腸炎の報告数（100 例）は、ほぼ横ばい。水痘の報告数（31 例）も、ほぼ横ばい。手足口病の報告数（10 例）も、ほぼ横ばい。RS ウイルス感染症の報告数（11 例）は、やや減少。なお、インフルエンザ定点からの報告の内訳は、奈良市 HC 管内；47 例、郡山 HC 管内；26 例で、両管内共に定点当たりの報告数の流行開始値を上回った。郡山 HC 管内基幹定点から、マイコプラズマ肺炎が 1 例（5～9 歳児）報告された。奈良市 HC および郡山 HC 両管内眼科定点からの報告はなかった。（村井 記）

県中部地区概況 報告数は 50 週の 182 例から 51 週は 243 例と増加した。上位の 5 疾患（50 週→51 週）は、①感染性胃腸炎（77 例→123 例）、②インフルエンザ（21 例→57 例）、③水痘（22 例→16 例）、④RS ウイルス感染症（15 例→14 例）、⑤A 群溶連菌咽頭炎（13 例→7 例）の順であった。感染性胃腸炎は増加し 1 位に、インフルエンザも増加し 2 位に、水痘が 3 位に、RS ウイルス感染症が 4 位になった。インフルエンザは増加し流行の傾向にある。眼科定点及び基幹定点からの報告はなかった。（徳田 記）

県南部地区概況 報告数（第50週→第51週）は51例→39例と減少。報告のあった疾患は、①感染性胃腸炎（23例→23例）、②A群溶連菌咽頭炎（14例→5例）、③水痘（11例→4例）、④インフルエンザ（0例→3例）、⑤RSウイルス感染症（1例→2例）、⑥突発性発疹（1例→1例）、⑦流行性角結膜炎【眼科定点】（0例→1例）であった。（柳生 記）

【全数報告対象感染症発生状況（平成23年11月）】

平成23年11月に奈良県内の保健所に届出のあった全数報告対象感染症は、以下の通りです。

11月報告患者数（平成23年12月28現在）

類型	疾患名/保健所名	奈良市	郡山	桜井	葛城	内吉野	吉野	11月計
2類	結核	3	8	9		2	2	24
3類	腸管出血性大腸菌感染症						1	1
4類	レジオネラ症		1					1
5類	アメーバ赤痢	1	1					2
5類	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1						1
5類	後天性免疫不全症候群		1	3				4
5類	梅毒		2					2

（感染症情報センター 記）

奈良県結核患者情報

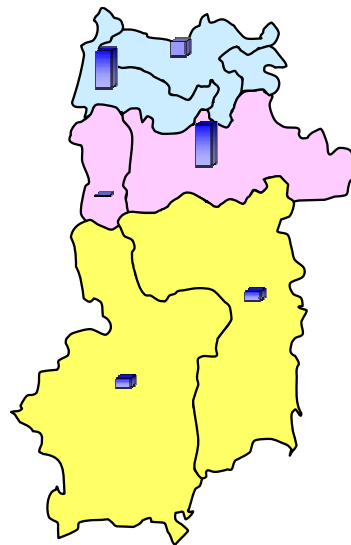
表、結核届出数（平成23年4月～）

市町村	11月	総計	
北和	奈良市	3	56
	大和郡山市		13
	天理市	2	15
	生駒市	6	22
	平群町		4
	三郷町		5
	斑鳩町		4
	安堵町		3
中和	大和高田市		13
	御所市		7
	香芝市		12
	葛城市		5
	上牧町		8
	王寺町		10
	広陵町		9
	河合町		2
	橿原市	6	21
	桜井市		9
	宇陀市	3	6
	三宅町		1
	田原本町		5
	高取町		1
明日香村		1	
南和	吉野町		2
	大淀町	2	6
	五條市	2	13
	十津川村		1
合計	24	254	

（12月28日現在）

奈良県感染症情報センターでは結核患者発生動向情報を提供しています。

今回は11月の新規届出状況をお知らせします。



（感染症情報センター 記）